

教育委員会月報



文部科学省

事業紹介 初等中等教育局幼児教育課

地域の幼児教育推進体制の活用支援を強化!

～幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業～

Series 地方発! 我が教育委員会の取組

かまくらULTLAプログラム

～一人ひとりの個性や特性に応じた学びで、子どもの自立を支援～
神奈川県鎌倉市教育委員会

「キャリアフェスティバルいといがわ」

～産学官連携の具体的なかたち～
新潟県糸魚川市教育委員会

お知らせ



2022年11月28日発行 第74巻8号

2022 November



事業紹介 初等中等教育局幼児教育課

地域の幼児教育推進体制の活用支援を強化!

～幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業～ 1

Series 地方発! 我が教育委員会の取組

かまくらULTLAプログラム

～一人ひとりの個性や特性に応じた学びで、子どもの自立を支援～

神奈川県鎌倉市教育委員会 3

「キャリアフェスティバルいといがわ」

～産学官連携の具体的なかたち～

新潟県糸魚川市教育委員会 7

お知らせ

「トビタテ! 留学JAPAN」令和5年度から第2ステージを開始

文部科学省総合教育政策局国際教育課 11

地域の幼児教育推進体制の活用支援を強化!

～幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業～

はじめに

幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い幼児教育が提供されることは極めて重要です。地域の幼児教育の質の向上に当たり、幼稚園、保育所、認定こども園といった複数の施設類型が存在し、私立が多い幼児教育の現状においては、公私・施設類型の垣根を越えて、保育者の専門性の向上等の取組を一体的に推進していくことが重要です。そのため、地方公共団体においては、「幼児教育センター※1」の設置や「幼児教育アドバイザー※2」の育成・配置等の幼児教育を推進する体制（以下、幼児教育推進体制）を構築し、持続可能な仕組みとして充実させていくことが期待されています。

1

幼児教育推進体制の構築・充実・強化

文部科学省では、令和元年度から令和3年度にかけて、幼児教育の更なる質の充実を図るため、地域の幼児教育の拠点となる「幼児教育センター」を設置する等、幼児教育推進体制の構築のための取組が進んでいる都道府県又は市町村に対して、幼稚園・保育所・認定こども園等を巡回して助言等を行う「幼児教育アドバイザー」の配置等の取組を支援する「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」を実施してきました。

令和4年度からは、これまでの知見を踏まえつつ、より地域の幼児教育に関する課題に的確に対応できるよう活

用支援を強化するため、「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」を実施しています。本事業では、「幼児教育アドバイザー」の配置等への支援に加え、幼保小接続の推進やそれらに伴う研修の実施、保健・福祉等の専門職との効果的な連携、域内全体における幼児教育の質向上を図るための仕組み作り等の取組を支援しています。

※1 幼児教育センター

幼稚園教諭・保育士・保育教諭等に対する研修の機会の提供や幼児教育に関する研究の実施・成果の普及、各園等からの教育相談等を行う地域の拠点を指す。

※2 幼児教育アドバイザー

学識者や元園長など、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、幼児教育施設等への訪問を通じて、園の教育内容や指導方法、指導環境の改善について助言等を行う者を指す。

2

幼児教育センターの設置等に向けて

令和4年度からは、従来より実施してきた補助事業に加え、幼児教育推進体制未実施地域において、円滑に幼児教育推進体制を構築・実施できるよう、「幼児教育センター」の設置に向けた検討委員会の開催や「幼児教育アドバイザー」の試行配置等の実証研究を行う委託事業を実施しています。

今年度は長崎県および神奈川県秦野市を採択し、来年度の「幼児教育センター」設置等に向けた取組が進めら

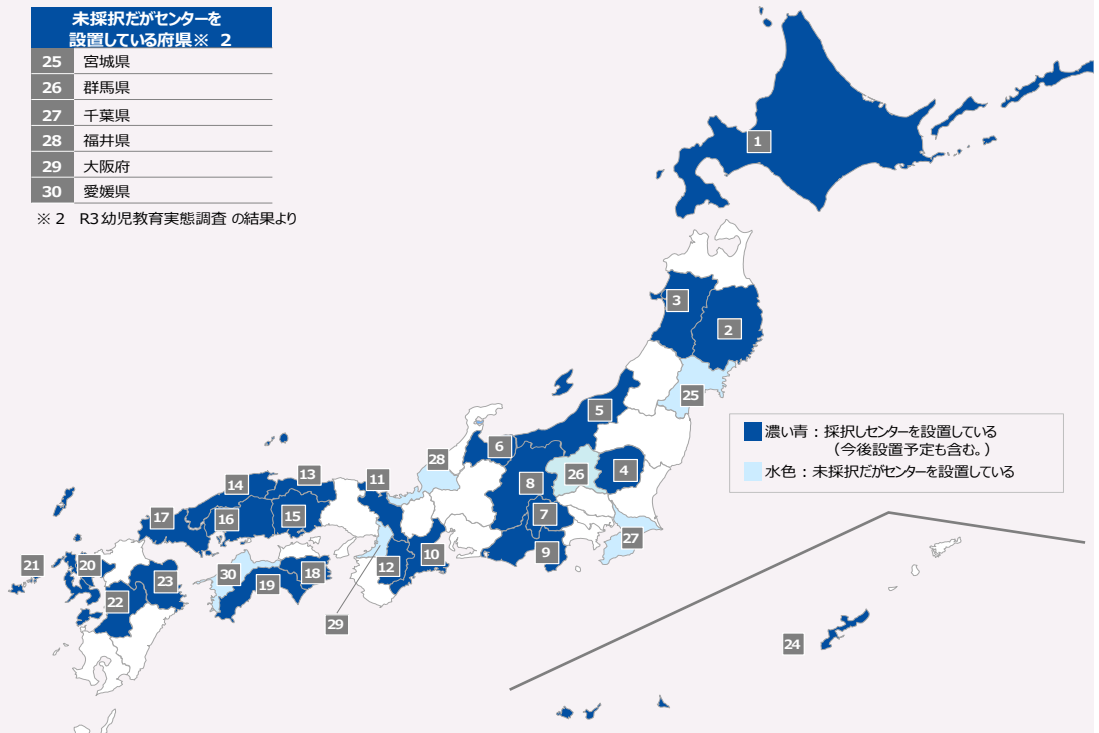
幼児教育センター設置 都道府県一覧



R4採択団体※1	
1	北海道
2	岩手県
3	秋田県
4	栃木県
5	新潟県
6	富山県
7	山梨県
8	長野県
9	静岡県
10	三重県
11	京都府
12	奈良県
13	鳥取県
14	島根県
15	岡山県
16	広島県
17	山口県
18	徳島県
19	高知県
20	佐賀県
21	長崎県
22	熊本県
23	大分県
24	沖縄県

未採択だがセンターを設置している府県※2	
25	宮城県
26	群馬県
27	千葉県
28	福井県
29	大阪府
30	愛媛県

※2 R3幼児教育実態調査の結果より



※1 R4採択団体とは「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」採択団体を指す。

0

れています。

幼児教育推進体制が未構築の地方公共団体において、庁内の体制づくりの検討から始める必要があるといった場合は、本事業の活用もご検討いただき、幼児教育センターの設置等に向けた準備を加速させていただければと思います。

なお、今年度は補助事業と委託事業を合わせて24道府県を採択しており、独自財源により幼児教育センターを設置している府県と合わせると、30道府県において「幼児教育センター」が設置されています。

おわりに

昨今、幼児教育の関心や期待が高まっている中、地域の幼児教育推進体制の更なる充実が期待されています。文部科学省としては、幼児教育推進体制の構築等を含め、

引き続き域内の幼児教育の質の向上を図るための取組を支援してまいりますので、地方公共団体におかれては、本事業の活用について積極にご検討いただき、幼児教育推進体制の強化に取り組んでいただきますようお願いいたします。

【参考】

- ◆ 幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1405077_00011.htm
- ◆ 幼児教育推進体制の強化（リーフレット）
https://www.mext.go.jp/content/20210210-mxt-youji-000008548_1.pdf
- ◆ 令和3年度「幼児教育推進体制の充実・活用強化事業」主な取組概要
 - ① https://www.mext.go.jp/content/20220826-mxt_syoto06-000008548_1.pdf
 - ② https://www.mext.go.jp/content/20220826-mxt_syoto06-000008548_2.pdf

かまくらULTLAプログラム

～一人ひとりの個性や特性に応じた学びで、子どもの自立を支援～

はじめに

本市では、今後訪れる「Society 5.0」の社会に対応したスキルや学びに向かう姿勢、そしてSDGsの目標達成に向けて、子ども一人ひとりが主役となり、また、学校において主体的かつ対話的な授業を実現し、個々の能力や関心に応じた学びを提供するため、学校を持つ資源に加えて大学や企業など様々な団体と連携しながら、教師も子どももワクワクするような魅力的な学校づくりを進めています。

そうした多様な教育活動の中から、今回は令和3年度に立ち上げた「かまくらULTLA※プログラム」について紹介します。



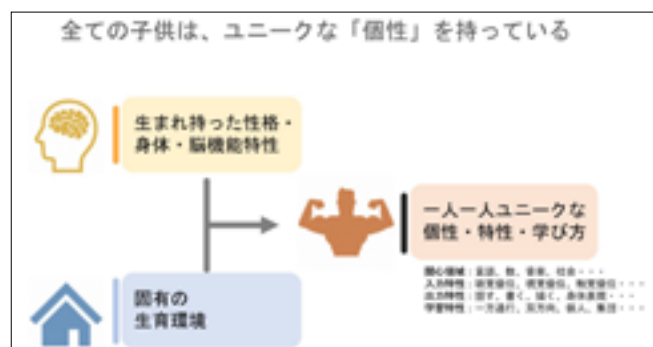
※ ULTLAは「Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment (学びの最適化と評価による個性の解放)」の略。

1. かまくらULTLAプログラムの着想

私たちは子どもも大人も、唯一無二の個性や特性を持っています。それは「学び方」についても同様で、一人ひとりに自分らしい学び方があります。活字ベースの学びが得意な子もいれば、音声ベースの学びが得意な子

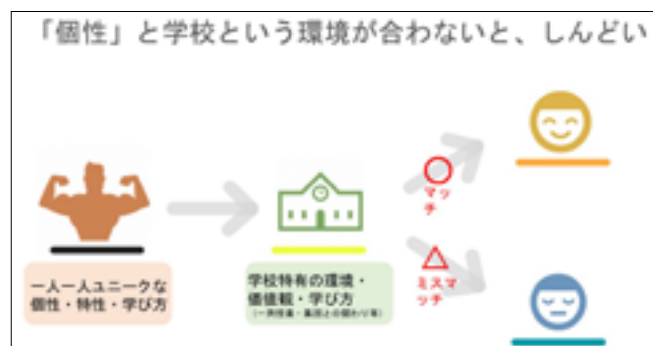
もいます。集団での学びが得意な子もいれば、個人の学びが得意な子もいます。思考スタイルも発散傾向・収束傾向と多様ですし、関心領域も様々です。

生まれ持った特性や生育環境の影響を受け、一人ひとりのユニークな学び方(認知特性・学習特性)が成長に伴って形成されていきます。学校でも、子どもたちの多様な能力や特性、興味などを引き出す「個別最適な学び」の実現に日々挑戦しています。



ユニークな個性・特性・学び方の形成イメージ

一方で、学びたい、何かやってみたいという気持ちはあるけれど、学校での学習に馴染めず、不登校あるいは休みがちになっているなど、学校に通うのがつらいと感じている子どももいます。



学び方のミスマッチが起こるイメージ

こうした子どもたちに対して、学校や教育委員会では、教育相談・学習支援など様々な取組を行ってきており、それらの取組自体は非常に大切なものですが、そもそも

学校の学びに馴染めないと思う原因となったユニークな学び方（認知特性・学習特性）に着目した支援ができていたでしょうか。まさにこれが、かまくら ULTLA プログラムの出発点です。

学校に行くのがつらいと思う根っことなるような自分の特性に、劣等感や嫌悪感を抱いている子どもも多いかもしれません。しかしそんな風に思わなくても大丈夫です。そうしたユニークな学び方にこそ宝石が眠っていると思いますし、唯一無二のその人らしさが埋もれていると考えます。学校への行きづらさを抱えている子ども一人ひとりが、自分のそうしたユニークな学び方を「認識して、発揮して、ワクワクする」。そんな経験を提供することが、学校の学びに馴染めないと感じている子どもたちの将来にわたる自立・幸福の礎となるのではないのでしょうか。

このような思いから、かまくら ULTLA プログラムを開発・実施することにしました。

2. かまくら ULTLA プログラムの基本要素

この理念を実現するため、かまくら ULTLA プログラムは大きく分けて2つの要素で構成しています。一つは「アセスメント」です。学術的な根拠に基づいて作られたアセスメント分析シート「学びのポートフォリオ」で、その人の学びの特性を言語化していきます。



「学びのポートフォリオ」（株式会社 SPACE 提供）

しかし、特性の分析シートを受け取ったからといって、それだけでパッと人生が変わるわけではありません。自

分らしい学びを「試す」場所、すなわち「探究プログラム」があわせて必要です。素敵な環境、ゆったりとした時間、安心してチャレンジできる「正解のない」学びの環境の中で、アセスメントの結果をヒントにしながら、自分の心が動く方向にじっくり学んでいく機会を提供します。

かまくら ULTLA プログラムでは、アセスメントなどを通じて自分の個性や特性を自ら把握しながら、それを生かして探究的な学習に取り組み、好奇心や情熱をカタチにすることに喜びを感じ、自信と意欲をもって学びに向かうことができる力を育むことを目指しています。



「かまくら ULTLA プログラム」とは

探究プログラムは「正解」に向かってではなく、「自分の心のコンパス」を頼りに、自身の特性や興味関心を生かして自分らしい学びに没頭できるよう、デザインしています。

なお、かまくら ULTLA プログラムに参加できるのは、学校における学習に馴染めず、学校に通うのがつらいと感じている市立小中学校に通う小学4年生から中学3年生の児童生徒で、個々のプログラムへの参加を希望する場合は、特設ウェブサイトでユーザー登録後、テーマごとに申し込める仕組みになっています。



親しみやすい特設ウェブサイト

3. 令和3年度の取組

(1) プログラムについて

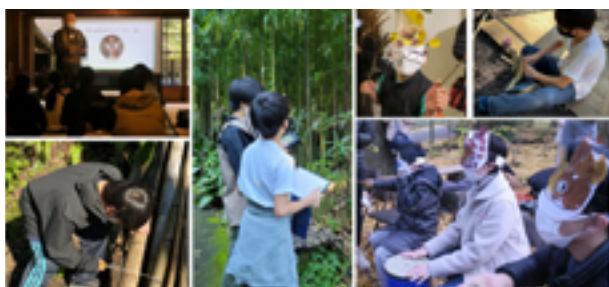
令和3年度は、鎌倉という地域特性を活かした題材や資源を活用し、「海」と「森」をテーマにプログラムを実施しました。

令和3年度に実施したプログラム		
プログラム名	日時	プログラム内容
海 のプログラム 専門家によるワークショップ、地引網体験や地元漁師の話を通じて、海や海藻・魚などの生き物の多様性や命を感じ、「生きる」を考える	1日目 2021年 11/12(金)	<ul style="list-style-type: none"> ● 暮らしのULTA ー自分学入門ー ● 中食中食！手紙のする奥から ● 商店街で魚を探せ！ ● いざ、海の世界へ！知られざる漁師たちの正体
	2日目 11/13(土)	<ul style="list-style-type: none"> ● 魚と人間の結びつき ● 魚の心臓を繋ぐ漁師のまかない ● 「魚地」をテーマに描けるクワシロ ● 魚デザイン！魚まつるシヤリ製作する
	3日目 11/20(土)	● 海の命のセレモニーを開催！
森 のプログラム リズムをテーマにした身体運動、竹を使った楽器作りと演奏などを通じて、目には見えない身体・心・自然の変化を探究する	1日目 10/27(水)	<ul style="list-style-type: none"> ● 暮らしのULTA ー自分学入門ー ● 誰がわたり、手わたりするのはなぜ？ ● ちび料理を味わおう！ ● ちびの、ちびの音楽！
	2日目 10/28(木)	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽以上に、竹がわかる！ ● 一汁一菜、飯食の入門 ● 竹楽器を作ろう！
	3日目 12/11(土)	● ZEN演奏会、開催！

プログラムの内容

プログラムでは、様々な切り口で、漁師や僧侶、シェフなど普段学校の教室にはいない人々、通称「ULTLA ナビゲーター」と共にまちに出たり、少しマニアックなことに取り組んだりする中で、学んだことを作品や音、言葉、絵、身体など自分に合った方法で表現し、学ぶ喜びや意欲につながりました。

参加者は、ユーザー登録者31名中、「森」は15名（小学生10名、中学生5名）、「海」は15名（小学生12名、中学生3名）でした。



森のプログラムの様子



海のプログラムの様子

(2) ULTLA インパクトデイの実施

かまくら ULTLA プログラムの趣旨やプログラム当日の様子を多くの方々と共有するとともに、子どもたちがプログラムでの学びを振り返ることで新たな一歩を踏み出すきっかけを生み出すなど、子どもにも大人にも「インパクト」を与える機会としたいという思いから、令和4年3月に開催しました。

当日は、参加者や保護者、学校関係者などが集まり、子どもの探究レポートの発表、ULTLA ナビゲーターからのメッセージ、ゲストを呼んでのセンパイトーク、座談会の他、プログラムで制作した参加者の作品展示なども行い、全員で振り返りと、新しい一歩への歩みを進めました。



4. 令和3年度の取組成果

プログラム参加者にアンケートを実施し、5段階評価を行ってもらったところ、「心のエネルギーが充電されたか」の問いに75%、「自分らしい学びが見つかった」の問いに72%が「そう思う」「ややそう思う」と答え、また、参加者からは「日常生活に繋がることが学べた」「知らない大人やほかの学校の人と仲良くなって楽しかった」等の声がありました。保護者アンケートでは、かまくらULTLAプログラムに参加したことにより「笑顔が増えた」「意欲が向上した」「自信がついたようで、登校が再開した」等、子どもに変化があったとの回答が92%に上りました。

令和4年度は、かまくらULTLAプログラム以外の場合でも自分らしい学び方を捉える機会や自分に合った興味関心領域に出会える機会を子どもたちに提供するため、令和4年10月20日には一般財団法人ルートこどもみらい財団と株式会社SPACEと本市教育委員会の三者で「多様な学びの場の構築に向けた包括連携協定」を締結し、オンラインプログラムの活用と情報連携の取組を開始しま

した。

また、かまくら ULTLA プログラムでの学びの成果を子どもたちが所属する学校において指導や関わり方に活かせるよう、学校との連携もさらに進めていく予定です。

おわりに

かまくら ULTLA プログラムの取組は始まったばかりです。我々も日々試行錯誤の連続で、まさに「へーんしん」の真っ只中ですが、この取組が子どもたちの可能性を開花させるきっかけとなり、自信と意欲をもって未来の社会で活躍できる一助となるならば、こんなに嬉しいことはありません。

皆さんもぜひ一度、ULTLAの世界をのぞいてみてください!

【参考】

[かまくら ULTLA プログラム特設ウェブサイト](#)



[鎌倉市教育委員会 note](#)

(プログラムの様子をはじめ、教育委員会の様々な取組を紹介しています。)



「キャリアフェスティバルいといがわ」

～産学官連携の具体的ななかたち～

はじめに

当市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県に接しています。50キロもの海岸線に面し、本州を東西に二分するフォッサマグナ（大地溝帯）の西縁となる「糸魚川 - 静岡構造線」の北端に位置しています。

また、国石であるヒスイの質・量ともに国内随一の産出地であるとともに、世界最古のヒスイ文化発祥地でもあります。平成21年には、その多様な地域資源や固有の文化などが評価され「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されたことは他の自治体にはない当市の魅力です。

一方で、地方都市ならではの急激に進む人口減少問題を抱え、人口構成も高齢化が進むだけでなく、少子化の進行により社会保障を支える人口構成バランスが崩れつつあることが大きな課題となっています。

1. 子ども一貫教育基本計画の策定

(1) 計画策定の経緯と趣旨

社会や経済の急激な変化、少子高齢化社会や高度情報化社会の一層の進行等により、子どもを取り巻く教育環境の悪化が懸念されています。糸魚川市では、未来を担う人づくりが市発展の原動力であるとの考えに立ち、市民総ぐるみで子どもを育む活動を提唱し、明日を担う人づくりを掲げて教育施策の充実に努めてきました。子どもの育ちや学びは常に連続し一体的なものであり、発達段階にふさわしい連続性を重視した教育を行うことが必要です。そうしたことから、平成21年度に「子ども一貫教育方針」を策定し、翌22年度には「子ども一貫教育基本計画」とする、子どもの「自立」のために家庭・地域・園や学校などが互いの役割を共通認識し、連携しながら子どもの発達段階に応じて実践活動に取り組むための具体的な計画を定めました。

(2) 基本計画で目指す方向性

子ども一貫教育基本計画では、子ども一貫教育方針で掲げる「豊かな心の育成（徳育）」「健やかな体の育成（体育）」「確かな学力の育成（知育）」の3つの柱と、それを支える重要な教育活動として「キャリア教育」「ジオパーク学習」「特別支援教育」を位置付けています。

	項目	目指す方向（育てたい力）
3つの柱	豊かな心	自己肯定感があり豊かな心と社会性をもつ子の育成
	健やかな体	生活スケジュールの自己管理能力の育成
	確かな学力	主体的に学び続ける力の育成
重要な教育活動	キャリア教育	自分に自信をもち、糸魚川への愛情・愛着が高まる子の育成
	ジオパーク学習	体験、学習活動を通したふるさと糸魚川への愛着の形成
	特別支援教育	自立を目指した、とぎれない支援の推進

本計画で目指すのは、18歳での自立です。

糸魚川市で生まれ育ち、学び、成長を続ける子どもたちが、家庭・地域・園や学校との連携のもと、心と健康と学力のバランスがとれ、夢を持った子どもに育つことを目指し、0歳から18歳まで適時適切な教育と切れ目のない支援を行うこととしています。

2. キャリア教育がもたらすもの

(1) 地域との関りの大切さ

キャリア教育とは、自分らしい生き方を実現するための力を育むことであり、世の中で自立し、自分の役割を果たしながらしっかりと生きていくために欠くことのできない力です。加えて、当市では、郷土への愛着と郷土に貢献する態度をキャリア教育の軸に据えています。

郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成は、幼児期から高校卒業まで（一度地域を離れるまで）一貫して行うことが重要ですが、少子化が著しい当市の場合、生徒数減少の影響から地域活力が衰退し、若者世代の流出が加速していくことが懸念されています。

平成28年度調査「地方における雇用創出－人材還流の可能性を探る－」（独立行政法人労働政策研究・研修機構）によれば、Uターンは地元への愛着や地元企業への認知によって形作られ、とりわけ愛着に影響する部分が多いことが報告されています。地元企業をよく知らないことを背景に人材流出が引き起こされているのであれば、高校生年代までに地域の働く場を知ること、転出後も出身地への愛着として心に残り、Uターン希望を喚起する可能性につながるというものです。

進学や就職等で高校卒業時の転出率が8割を超えますが、キャリア教育を通じて地域に深く触れた経験が地域について考え行動する人材を育て、Uターンの促進や地元定着といった将来の人材サイクルの構築に非常に重要になってきます。

(2) 先進地域への視察

令和元年、特徴あるキャリア教育を行っていると感じた長野県伊那市を訪問し、「伊那市中学生キャリアフェス」を見学させていただきました。地域への愛着を高め、将来の地域人材を育てるという明確な目標のもと、学校・企業・地域が協働し、キャリア教育を通じた地域活性化の取組のまさにモデルケースといえるものでした。先進的な事例を目の当たりにしたことをきっかけに、同様の取組が当市でも行えないか検討を始めました。

3. 中学生キャリアフェスティバル

(1) キャリア教育イベントの開催

令和2年、当市のキャリア教育における新たな取組として「キャリアフェスティバルいといがわ」を立ち上げました。自分らしい生き方を実現するための「かかわる力」「夢をおこす力」を育てるために、生徒が地域の大人と対話し、自分の未来、地域の未来を考える機会を創り、加えて、多くの職種や職業観に触れることで、地元企業の素晴らしさを知り、地域への愛着を高めてもらうことが目的です。

当市に生まれた子どもが、幼児期からの自然体験を経て、小学校低学年での地域学習、高学年の職場見学、中学校2年生の職場体験と積み重ねてきたキャリア発達を一層促す集大成として、中学校3年生を対象にしました。



実施にあたっては、産学官で組織した実行委員会が主体となり、出展企業は教育的意義を理解したうえで、また学校側は共通の内容で事前学習を行い、参加者全員が高い目的意識をもって当日に臨みます。

概要は次のとおりです。

- ・ 会場内に企業・団体がPRブースを構える
- ・ 生徒が自由に企業・団体のブースを訪問し、地域の大人と対話する
- ・ 企業は、仕事の紹介を通じて、仕事のやりがいや生き方、地域に対する想いを伝える
- ・ 生徒は、その想いを聴くとともに、積極的に質問を投げかける

※ルール：就職のための企業説明会となってはならない

(2) 生き方に出会える場所を届ける

市内のすべての中学3年生が一堂に会する機会はありません。まして、親でも学校の先生でもない大人との対話もほとんど経験がないことです。はじめこそ緊張で硬かったものの、ブース巡りを重ねるにつれ本来の中学生が持つパワーが解放されていき、自分の興味・関心に耳を傾け、貪欲に何かを持ち帰ろうとする姿勢が見られるようになりました。



真剣に大人の話聞く生徒の目はキラキラと輝き、その眼差しに本気で応える大人たち。熱い想いのぶつかり合いは、会場に熱気とともに大きな一体感を生み出しました。会社や仕事を知ってもらうこともねらいの1つですが、大事にしたのは、一人ひとりの大人の糸魚川での暮らしや地域に対する想い、生き方を感じてもらうことです。大人との対話の中でたくさんの驚きや学びがあり、自分は将来どうありたいかを真剣に考える時間になったことと思います。出展企業の満足度も高く、好意的な評価とともに、今では9割以上の企業から連続して出展をいただいています。

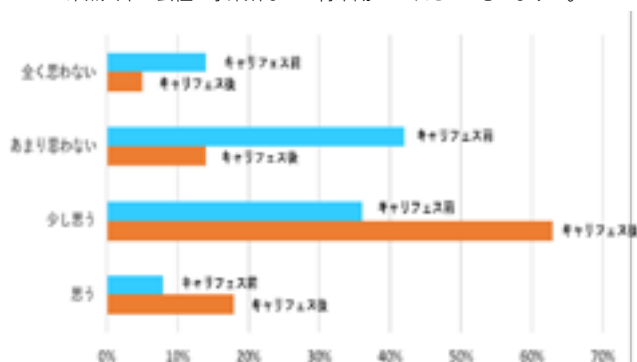
企業にとっても、子どもの真剣な想いや生の声を聞くことができる絶好の機会として、まさに産学官が連携した好事例となりました。

4. 成果と課題

(1) 生徒の意識の変化

キャリアフェスティバルの前後で生徒の意識の変化を分析しています。市内で知っている企業数について、開催前は6～10件という回答が多かったものが、開催後は11～20件と大きく増えました。また、市内の企業で働いてみたいかという設問では、開催前では「あまり思わない」「全く思わない」という回答が半数以上でしたが、開催後は「少し思う」「思う」の回答が8割を超えました。

糸魚川市の会社・事業所などで将来働いてみたいと思いますか。



さらに、自由記述意見では、「考え方や生き方の面で大きく成長するひとつのきっかけになった。」「真剣に頑張る大人を初めて見た気がする。本当にかっこよかった。」「将来、糸魚川で働きたいという思いが強くなった。」などの好意的な声が多数あり、大人の想いが子どもたちに届いていることを実感しました。



一方で、職種の片寄りやこれからの時代の新しい働き方の提案が少なかったといった課題も見つかり、開催後に産学官から募る評価アンケートをもとに改善を図っていくこととしています。

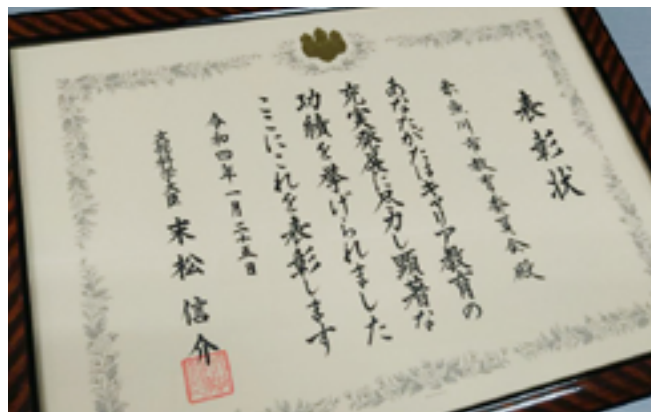
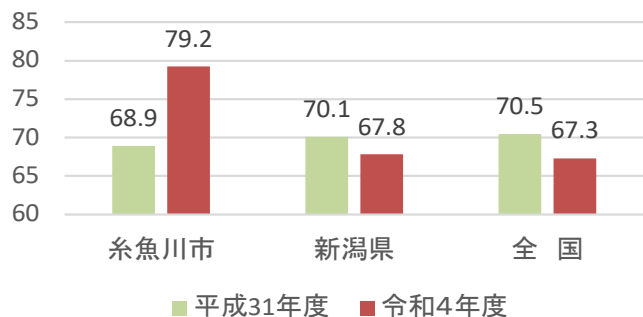
(2) キャリアプランニング能力の育成

次ページのグラフは、平成31年度の全国学力・学習状況調査時と令和4年度の調査結果を比較したものです。平成31年度当時、当市の中学3年生は全国割合と比べて夢や目標をもっている子どもが少なかったものの、令和2年度にキャリアフェスティバルを始めた以降では全国割合を大きく上回るようになりました。キャリアフェスティバルは、郷土愛のほか、自己理解やキャリアプランニング能力を育む機会にもなっています。

「令和4年度全国学力・学習状況調査」結果（国立教育政策研究所）

「将来の夢や目標を持っている」（％）

中学3年生



「キャリアフェスティバルいといがわ」を含めたキャリア教育の取組が評価され、令和3年度キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰を受賞しました。

おわりに

今年で3回目をかぞえ、出展企業はもとより、中学校や多くの教育関係者から糸魚川市のキャリア教育に対する本気が伝わる素晴らしい取組との評価をいただくようになりました。年々、参加企業が増えていることから、我々だけではなく、市民全体が地域の将来に危機感を抱き、想いを共有している現れだと捉えています。

産業界、学校、行政の3者が一緒に汗をかき、言葉だけではない、産学官連携というものが具体的な形となった試みであり、回を重ねるにつれ、着実に連帯が深まっていると感じています。それとともに、産学官が共通理解のもと、こういった場を作り上げられていることに感謝しています。

キャリアフェスティバルは、当市の最重点課題である人口減少対策に対する教育委員会としてのひとつの実践であり、この子どもたちがどのような将来を選択するか、数年後の成果の発現に注目しています。

今年もこれまで以上の盛り上がりで無事終了したキャリアフェスティバルいといがわ。産学官それぞれの想いを組み入れながら、毎年少しずつ形を変えてきています。教室だけでは得難いリアルな感動体験をこれからも大切に、想いが受け継がれ、いつかこの生徒たちが仕事への誇りや生きがいを熱く語っている未来が来ることを楽しみにしています。

「トビタテ!留学JAPAN」 令和5年度から第2ステージを開始

文部科学省総合教育政策局国際教育課

● はじめに

官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム～は、日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定)や教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)に掲げられた、日本人高校生の海外留学生数を6万人にするという目標の達成に向けて、グローバル人材の育成のために民間企業からの寄附金によって、官民が協力して運営してきたものです。

この度、コロナ禍で大きく落ち込んだ海外留学の機運を再び醸成し、若者の海外留学の促進に向けて新たなビジョンを掲げ、令和5年度から令和9年度までの5年間、官民協働オールジャパンで、トビタテ第2ステージを実施することになりました。第2ステージにおいては、「日本代表プログラム」の後継事業として、「新・日本

代表プログラム」を実施します。

もともと文部科学省及び独立行政法人日本学生支援機構では、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、平成25年度から「トビタテ!留学 JAPAN」(以下、「トビタテ」)を推進し、その取り組みの一つとして令和2年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」の派遣留学生として採用し、幅広い国・地域への留学を支援してきました。

第2ステージでは、より若い時期からの海外経験を将来の留学につなげるため、高等学校段階からの留学機運醸成・支援をさらに強化しております。

● トビタテ第2ステージのビジョンと取り組む三事業の概要

トビタテ第2ステージのビジョンと取り組む**三事業の概要**について説明します。次の図をご覧ください。

トビタテ第2ステージのビジョンについては、Challenge, Connect, Co-create を掲げています。

Challenge (チャレンジ)：若者の海外への挑戦をオールジャパンで応援する。

Connect (コネクト)：トビタテ生同士を繋げ、多様な若者が繋がるコミュニティを形成する。トビタテ生が海外のネットワークと繋がる。トビタテコミュニティと志を同じくするステークホルダーを繋げる。

Co-create (コークリエイト)：協働して次期事業を

作り上げ、留学機運を再醸成する。協働プロジェクトを創出し、社会に創造と変革を起こす。価値イノベーション人材のロールモデルを輩出する。

また、トビタテ第2ステージでは、新・日本代表プログラム、留学プラットフォーム、価値イノベーション人材ネットワークの3事業を実施します。3事業の概要は次のとおりです。

① **新・日本代表プログラム**：日本の未来を創るグローバルリーダー像と留学を通じた人材育成をアップデート

トビタテ！留学JAPAN 第2ステージのビジョンと取り組む三事業の概要

留学機運の再醸成		
留学者数の回復	ロールモデルの輩出	
<p>2027年度末までに達成すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により激減した留学生数を、少なくともコロナ前の水準にいち早く回復させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな“グローバルリーダー”5,000名の輩出 ・社会に対してインパクトを生む人材2,000名の輩出 	
<p>2028年度以降もレガシーとして継承する仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期トビタテの成果も踏まえ、各自治体や各高等学校等を主体とする特色ある留学支援制度の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションを生み出すトビタテ生のコミュニティを活性化し続けるエコシステム 	
成果のエビデンスと発信		
<p>2 留学プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業界、自治体、学校等による既存の留学支援の取り組みを可視化 ・留学奨学金制度や留学プログラム、留学啓発機会に全国のより多くの主体（特に自治体、高校、大学）が積極的に取り組む状態を目指す 	<p>1 新・日本代表プログラム 新たな“グローバルリーダー”5,000名の輩出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の未来を創るグローバルリーダー像と留学を通じた人材育成のアップデート ・大学：「自ら社会に変革を起こしていくグローバルリーダー」の輩出 ・高校：「社会(地域)にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」の輩出 ・高等学校段階からグローバル人材育成に取り組む留学モデル拠点地域を全国に構築 ・採用人数：大学生1,000名～ 高校生4,000名～ 	<p>3 価値イノベーション人材ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビタテコミュニティの更なる活性化と国内外の多様なステークホルダーとの協働の促進 ・価値イノベーション人材の輩出 ・価値イノベーション人材2,000名 ・国内外の協働圏種125団体

※上記3事業を独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）において実施

ビジョン：日本の若者が世界に挑み、“本音と本気”で国内外の人々と協働し、創造と変革を起こす社会
コンセプト：Challenge, Connect, Co-create

する。高校では「社会（地域）にイノベーションを起こしていくグローバルリーダー」の輩出、高等学校段階からグローバル人材育成に取り組む留学モデル拠点地域を全国に構築する。

- ② **留学プラットフォーム**：産業界、自治体、学校等による既存の留学支援の取り組みを可視化するほか、留学奨学金制度や留学プログラム、留学啓発機会に全国のより多くの主体（特に自治体、高校、大学）が積極的に取り組む状態を目指す。
- ③ **価値イノベーション人材ネットワーク**：トビタテコミュニティの更なる活性化と国内外の多様なステークホルダーとの協働の促進を図り、価値イノベーション人材の輩出を目指す。

以下は、10月12日に募集要項を公開した「新・日本

代表プログラム」についての解説です。

「新・日本代表プログラム」は、平成26年度より実施してきた「日本代表プログラム」の基本理念やコミュニティを受け継ぎつつ、より発展的に進化した事業として、将来、「社会（地域）にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」（高校生等）や「自ら社会にイノベーションを起こしていくグローバルリーダー」（大学生等）として日本の未来を創る人材を育成する新たなプログラムです。

「日本代表プログラム」の高校生コースは、平成27年から令和2年にかけて3,389名の高校生を採用し、留学した高校生は、幅広い国・地域への留学経験を日本社会に還元しており、以下に示したような内容となっています。

地方から海外へ飛び出したロールモデル



松尾 一輝

高校3期
プロフェッショナル

観光政策



【派遣時の所属】

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

【留学先・期間】

カナダ ルーネンバーグ観光情報センター
54日間

【現在の所属】

東京大学 文科三類

留学のきっかけは**祖父母の住む京都府伊根町の観光地を活性化したい**という思い。伊根町同様に漁師町かつ世界文化遺産に指定されたルーネンバーグに留学。観光情報センターでのインターンシップや現地で伊根町PR活動や現地の知事との対談等を通して観光産業発展の糸口を探る。**帰国後は町おこしボランティア等で活動。**

川野 七海

宮崎県地域人材コース
高校生等枠

観光政策



【派遣時の所属】

宮崎県立飯野高等学校

【留学先・期間】

台湾 靜宜大学
31日間

【現在の所属】

九州大学 共創学部

高校時代の地域探検活動の授業を通して、**地元の京町温泉郷に興味**を持ち、温泉観光なども盛んな台湾へ留学を決意。留学中は大学に通い観光についての授業をうけたり、温泉を経営する現地の方へのインタビュー等を実施。**留学を通して地元の観光を発展させたい**という気持ちが強くなり、大学進学後も観光のあり方の探究に向かっている。

大塚 桃奈

高校1期
アカデミック

ゼロ・ウェイスト



【派遣時の所属】

神奈川県立横浜国際高等学校

【留学先・期間】

イギリス ロンドン芸術大学
40日間

【現在の所属】

上勝町ゼロ・ウェイストセンター

当初はファッションを学びに留学を計画。留学を通して、その裏側にある環境問題や「リステナビリティ」に興味を持つようになる。現在は**上勝町を中心に「ゼロ・ウェイスト」と向き合いながら活動中**。最近では、日本の里100選に選ばれた上勝町の棚田を活用するプロジェクトにも参画する等**環境を軸に町おこしも実践している**。

高木 瞳

高校5期
アカデミック（ロング）

和食文化発信



【派遣時の所属】

石川県立金沢泉丘高等学校

【留学先・期間】

アメリカ合衆国
PENTUCKET REGIONAL HIGH SCHOOL
298日間

【現在の所属】

青山学院大学 総合文化政策学部

将来、**家業のミシュラン2ツ星日本料理店（金沢/銭屋）に貢献するために海外での「和食」の認識やその違いを学ぶことを目的に留学**。現地の高校に通いながら、現地の日本食レストラン等を見学。現在は、芸術や文化等を体系的に学びながら**将来の経営に生かすため各地で修行中**。

● 「新・日本代表プログラム」高校生等を対象としたコース（第8期）

高校生等を対象とするプログラムでは、我が国の高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部、高等専門学校（1～3年次）、専修学校高等課程に在籍

する日本人生徒等に対し、諸外国への留学に必要な費用の一部を奨学金・留学準備金として支給します。

募集コース及び募集人数

募集コースは、マイ探究コース、社会探究コース、スポーツ・芸術探究コースの3つのコースを設けています。国境を越えた探究活動を通じて得たものを社会に還元し、将来「社会にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」となる人材を輩出すると共に、「探究型留学」という新たな留学モデルの創出を行います。

■マイ探究コース

自らの興味・関心を基に考え出したテーマを海外で探究する留学コースです。好きなこと、得意なこと、挑戦してみたいことなど、自らの興味・関心や自分の中にある問題意識を起点として考えた自由なテーマや課題を設定し、多様な人々との異文化交流を通して、問題解決や社会貢献につながる探究活動に取り組む留学を支援します。定員は360名です。

■社会探究コース

社会問題解決や社会貢献につながるテーマを海外で探究する留学コースです。Society5.0 やSDGsを踏まえ、世界・日本・地域が抱える社会課題を自分ごととして考え、「自分自身」の立場からできること・できそうなこと・すでに取り組んでいる活動を活かし、自由な発想と創造力をもって課題解決や活性化、社会貢献につながる探究活動に取り組む留学を支援します。定員は200名です。

■スポーツ・芸術探究コース

所属する部活動または学校外活動を活かしてスポーツ・芸術への貢献等につながるテーマを海外で探究する留学コースです。自身が所属する部活動や学校外の活動を活かし、海外の指導者のもとで競技力や表現力のレベルアップを目指すとともに、スポーツ・芸術活動を通じた課題解決や社会貢献につながる探究活動に取り組む留学を支援します。定員は140名です。

◆地域応援枠について

高校生等の留学においては、都道府県ごとの海外留學生数に地域差があり、身近に海外留学経験者がいないなどの課題があります。そのような状況を解決するため、海外留学を経験したロールモデルが全国各地に必ずいる状態を創出していくことを目的に、「地域応援枠」を新設します。20名以上応募のあった都道府県を対象に上位5名を優先して採用します。

◆STEAM 枠について

マイ探究コース、社会探究コースの3割程度をSTEAM枠として採用予定です。

STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) とは、科学・技術・工学・芸術 (文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義)・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた言葉で、理学的な発想をベースにしつつ芸術的な創造性も高める教育手法です。

AI やIoTなどの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながらそれを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力の育成が求められており、トビタテにおいても別枠で審査を行います。

申請について

在籍生徒が在籍高等学校等担当者を通じて独立行政法人日本学生支援機構へオンラインにて申請します。在籍校からの申請期間は、令和5年2月(予定)～令和5年2月24日(金)17時です。

留学期間

14日以上～1年間となります。令和5年7月10日(月)～令和6年3月31日(日)が留学開始時期です。

支援内容

支援する月額奨学金は、120,000円または160,000円（留学先地域による）です。

月額奨学金に加えて留学準備金が支払われます。アジア地域は150,000円、その他の地域は250,000円です。

月額奨学金は家計基準を超える場合、60,000円となります。

なお、授業料は月額奨学金に含まれ、新型コロナウイルス感染症等の各種検査費用は留学準備金に含まれます。

● コンソーシアム（協議会）実施拠点形成支援事業

ここからは、令和5年度に派遣留学生をコンソーシアム（協議会）が募集する予定の拠点形成支援事業について説明します。

拠点形成支援事業とは、高等学校段階からグローバル人材育成に取り組む留学モデル拠点地域を全国に作る事業で令和5年度～令和6年度にかけて、全国から12地域を採択予定です。令和5年度は4～6地域、令和6年度は6～8地域の採択を予定しています。採

択初年度を含む3年間を支援し、生徒等の海外派遣は2年を予定しています。

拠点地域では、各地域を支援する企業・経済団体、地方公共団体（都道府県及び市町村）、高等学校等、高等専門学校、大学等、その他高等学校段階からのグローバル人材の育成に関心を持つ団体等によりコンソーシアム（協議会）を構成して事業を実施し、将来的に持続性のある事業の構築を目指します。



コースはマイ探究コース、社会探究コース、スポーツ・芸術探究コースに加え、地域が独自に設定する地域探究コースを設けます。

事業立ち上げを目的として、採択初年度からトビタテ事務局が、運営経費について2分の1支援します。また、募集から派遣までのプログラム運営は、プロジェクトアドバイザーを中心としたチーム（トビタテ生含む）でトビタテ事務局が伴走支援します。

事業全体の統括・運営を担う事務局は都道府県に設置いただき、派遣留学生への奨学金に充てる資金として、原則10社以上の企業等からの寄附金により毎年度500万以上の確保をお願いしております。合わせて次の図をご確認ください。

拠点形成支援事業の地域の公募に関する情報等は、改めて公開する予定です。

連絡先

募集要項、説明会等の詳細は、トビタテ公式ホームページ内、特設ページをご覧ください。

※トビタテ! 留学 JAPAN 新・日本代表プログラム
高校生等対象 ホームページ

<https://tobitate.mext.go.jp/newprogram/hs>



また、連絡先は次のとおりです。

トビタテ! 留学 JAPAN 新・日本代表プログラム事務局
独立行政法人日本学生支援機構
グローバル人材育成部 グローバル人材育成企画課

【電話】03-5253-4111（内線 4940）

【対応時間】平日 09:30 ~ 18:15

【問い合わせ専用フォーム】

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mema-lgmhkd-2041370b151343c497a32b3eb54cf539>



トビタテ第2ステージにおいても、引き続きオールジャパンで若者の留学を応援し、日本のグローバル人材育成をさらに力強く推進してまいります。皆さんからの応募をお待ちしております。

ひとりごと

2022年11月18日(火) 東京にて

「寝る前の読み聞かせが、子どもの教育に効果があるらしい。」といった声を自身が教員になってから、声高に聞いた時期があった。

両親共働きで帰宅が遅かったため、幼い頃の私を寝かし付けるのは祖父母の仕事であった。寝付きの悪かった私を寝かし付けるのは、なかなか困難な一仕事であったろうと思う。祖父はよく夜のドライブに連れていってくれた。福岡空港や中州の川沿いのネオンを眺め、ドムドムやロイヤルホストでドリンクを飲み、やっと眠りについた。祖母は私をおぶって近所を小一時間も散歩して回ってくれた。

私を寝かし付ける手段の中に、読み聞かせも確かにあった。もっぱら祖母が読み聞かせをしてくれていたものだが、その多くが仄暗い常夜灯の下で、静かに、ゆったりと読み上げられる推理小説であった。幼少期にアニメやドラマでは無いシャーロックホームズや怪盗ルパンを知る子どもは、そう多くは無いのだろうとふと思う。中でも私が気に入っていたのは江戸川乱歩の「怪人二十面相」から続く少年探偵団シリーズであった。続きが気になり、余計に眠れなくなりそうなものだが、不思議とそのまま眠れたものだ。

読み聞かせの効果があったかなかったかは不明だが、私は大学で国語を専攻し、卒業後に島根県で小学校の教員となり、この春からは何故か文部科学省へ研修生として派遣されてきた。東京での生活に憧れがあったわけでもなく、出不精の性質でもあるため、休日も特に何をするでもなく過ごしていたが、何とも勿体ないことをしているのではないかと感じ、「何か東京らしいことをしよう」と、思い立ったことが、「江戸川乱歩の愛した天麩羅」という謳い文句の店で天麩羅を食べることであった。

ここまでは「読み聞かせ」の効果は抜群であるかのように聞こえるかもしれないが、勿論、弊害もある。大人になった今でも、どうにも常夜灯で眠ろうとすると、「眠っている間に二十面相が現れ、何かを盗まれやしないだろうか。」「目覚めると、さるぐつわをされてどこかに連れ去られてしまうのではないだろうか。」と不安になってしまい、寝付きの悪さに拍車がかかる。真っ暗の方がよほど安心できる。

天麩羅を頬張りながら、幼い日の、読み聞かせをしてもらっていた頃の景色が目に浮かび、天麩羅も好きだった祖母に食べさせたら何と言ったかな。もしかしたら食べたことがあったかもな。と、先日亡くなった祖母の、推理小説を読み聞かせているとは思えない、穏やかで温かな声と、柔らかな笑顔が思い出された。

(T.Y)

あ と が き

- 事業紹介は、初等中等教育局幼児教育課より「地域の幼児教育推進体制の活用支援を強化!」です。
 - シリーズ「地方発!我が教育委員会の取組」として、神奈川県鎌倉市、新潟県糸魚川市の各教育委員会から取組のご紹介をいただきました。多種多様な取組をぜひご覧ください。
 - お知らせは、総合教育政策局国際教育課より「[トビタテ!留学JAPAN] 令和5年度から第2ステージを開始」です。
 - 色づいた葉が舞う頃となり、日に日に寒さが増しております。読者の皆様におかれましても、くれぐれもご自愛ください。
-
-

「教育委員会月報 令和4年11月号 No.877」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL : 03-5253-4111(代表)
- ・URL : <https://www.mext.go.jp>



文部科学省